

公 表
-----

第26回技能グランプリ「かわらぶき」職種 競技課題

I. 【作業時間】

第一日目	集合時間	8 : 30
	作業説明	8 : 30
	競技開始	8 : 45
	休 憩	10 : 15
	作業再開	10 : 30
	昼食休憩	12 : 00
	作業再開	13 : 00
	休 憩	14 : 45
	作業再開	15 : 00
	作業終了	16 : 45

第二日目	集合時間	8 : 30
	作業開始	8 : 45
	休 憩	10 : 15
	作業再開	10 : 30
	作業終了	12 : 30

---

作業時間	合 計	10 時間
------	-----	-------

- ★前日に施工架台の抽選を行い、2時間を限度として瓦の点検・瓦座打ち・瓦棧打ち及び地割り、架台に緊結線を打つまでを認める。  
当日は選手以外会場に入らないこと。

下記の仕様に従い課題図を参考にして屋根架台に瓦を葺きなさい。

## II. 【仕様】

1. 使用瓦は三州いぶし瓦53A判切落しを使用する。
2. 全ての瓦の納まりは現場作業を想定した施工とし、雨仕舞に配慮すること。  
(但し、下段の壁際まわり納めの隙間は30mm以内とし、必要な雨仕舞が施されている事として作業する。)
3. 瓦の葺き方は、引掛棧空葺き工法（馴染み土の使用は可）とする。
4. 軒瓦は鎌軒瓦と万十瓦を使用し、軒瓦の尻部分は銅線留めもしくはビス留めとする。
5. 袖瓦は、尻部2箇所を銅線もしくはビス留めとする。下段の2枚目の袖瓦は、壁に隙間なく納め、上段の袖瓦の拝は巴納とする。
6. 切隅瓦は、左右共に2箇所をトンボにて緊結し、互いに結び合わせる。
7. 軒瓦の出寸法は瓦座外面から60～90mm（流れ寸法）とする。  
なお、計測の位置は瓦座から軒瓦の水垂れ外面までの寸法とする。
8. 棧瓦は全数ビス留めとし、隅の左右勝手瓦は穴をあけ、野地よりトンボにて緊結する。定着用には葺土を使用してもよい。
9. 隅巴及び跨巴は、2箇所を野地よりトンボにて緊結する。
10. 隅の左右勝手瓦の隙間は、30mm以内とする。
11. 鬼瓦の緊結は、隅より16番の銅線を使用し3本を縫状にして止め付ける。
12. 下段の隅棟は鬼瓦の据付け位置は自由とし、割のし2段とし、素丸瓦を使用し上段の鬼瓦の前面に留付ける。
13. 上段の隅棟の鬼瓦の据付け位置は下段の2段めののし瓦の上に据付ける。  
割のしは3段とし素丸瓦を使用する。
14. 隅棟の頂点は、のし瓦・素丸瓦共に止め納めとする。
15. のし瓦は互いに緊結し、素丸瓦は1枚毎に野地よりトンボにて銅線を出し緊結する。
16. 割のし瓦のちりは、勾配で10mmとする。
17. 割のし瓦の勾配は3寸以上とすること。
18. 棟の台土は、台のしより30mm以上はいること。
19. 軒・袖・角・切隅等外周部の瓦はビスにより、補強止め付けをする。
20. 葺き土はなんばん漆喰とし、28kg入り6袋とする。
21. 瓦を破損した場合は申し出により支給するが、減点の対象とする。
22. 副資材の追加支給はしない。但しなんばん漆喰の追加は認める。
23. 作業時間を超過した場合は、失格とする。

### Ⅲ. 【注意事項】

1. 合端は支給の合端台を使用し、各自の競技架台の前ですること。
2. 他人の工具の貸借は禁止する。
3. 副資材として、接着剤・粘着テープを用いることは不可とする。

### Ⅳ. 【器具工具】

- ★ 使用する器具・工具は技能検定使用に準ずる。但し、木工用ノミと電動工具は充電式インパクトドライバーを使用可とし、充電は所定のコンセントを用いる。治具は認めるが横50cm縦30cm高さ20cmの箱の中に入る物とする。（組立て又は連結して箱の中に入らない物は認めない。）競技委員が認めない治具は使用不可。

### Ⅴ. 【安全作業】

- ★ 服装は高所作業を考え、シャツ・ズボンの袖を留め、地下足袋等を履き、安全帯・ヘルメットを着用のこと。（ヘルメットは会場にて支給）
- ★ 他人を負傷させたり、本人が怪我をした場合、その状況により失格とすることもある。

### Ⅵ. 【作業態度】

- ★ 選手は各都府県の代表を自覚し、競技を行うこと。
- ★ 応援団の目に余る指導やアドバイスがある場合には競技委員協議の上、平等を期すため選手の作業態度の評価で減点及び失格の対象とすることがある。